


### - 3 . 科学イベントへの参加要因に関する調査

#### Survey on Promoting Public Understanding of Science and Technology

 <b>キーワード</b>	理科離れ、理解増進、科学イベント
<b>Key Word</b>	Public Understanding

#### 1. 調査の目的

子供たちの「理科離れ」や「理科嫌い」の進行が懸念される中で、子供たちに自然や科学的なものを体験させるイベントが熱心に行われるようになってきている。それらは、教育機関や科学館が実施するものやボランティアが主催するものなど様々あり、その形態も展示的なイベントから参加・体験型のイベントまで非常に多様になっている。このような状況の中で、小学生の子供たちがこれらの科学イベントに参加する要因を明らかにすることを目的に、科学イベントに参加した小学生の子供たちの保護者に対してインタビューを実施した。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 調査の項目

主なインタビューの項目は、以下のとおりである。

自然や科学技術への関心

参加の要因(参加前)

参加の効果(参加後)

イベント案内等の広報

波及(今後の意向)

##### (2) 調査の結果概要

自然や科学技術への関心

・自然・科学技術への関心が高い人がイベントに参加している

保護者が自然や科学、技術に興味があってイベントに参加しているケースと保護者自身はそれほど科学等への興味は強くないが参加しているケースがあるが、全体的には前者のケースが多い。いずれの場合でも子供たち自身は、理科や自然、工作などに対して興味を持っているものとみられ、子供たちが科学的なことに興味を持っていないという意見は聞かれなかった。家庭内で科学的なことが話題にのぼることがあるという意見も聞かれ、子供か保護者、あるいはその両方が自然や科学技術に興味を持っている人がイベントに参加している。

##### 参加の要因

・イベント情報の認知は学校からの配布物による  
・子供が興味を持つことはどんどんやらせたいというのが動機  
・家庭の中で実施できないことを外部のイベントに求めている

イベントの開催をどのような方法で知ったかということに関しては、学校からの配布物からという意見が圧倒的に多かった。かなり積極的に情報を探索しているケースとして、新聞や地域紙誌、WEB などから情報を得ている場合もあるが、そのような人はそれほど多くない。「親が最も目を通すもの」という意見からもわかるように、学校からの配布物による情報は認知されやすい。また、学校からの配布物は子供自身も内容を知ることができるため、子供が配布物のみで参加を希望したというケースもある。なお、定期的、継続的に実施されるイベントでは、保護者同士の口コミによって情報を得ているケースもある。

イベントに参加しようとする動機としては、子供達が興味を持つことはどんどんやらせてあげたいからという意見があった。イベントに参加することによって、理数系の教科を好きになって欲しいとか、将来理系に進んで欲しいということを期待している意見は聞かれなかった。また、保護者自身の知識や家庭内で利用できる設備・機器には限界があり家庭内では実施できないことが多いため、外部のイベントを活用することにしたという現実的な意見も数人から聞かれた。このようなことが背景にあるためか、展示・説明型のイベントではなく、子供達の興味を引きやすい実験や工作などの体験型のコンテンツ、体験型のイベントに期待する声が多く聞かれた。

#### 参加の効果

- ・子供たちはコンテンツを十分に楽しんでいる
- ・成果(工作物)を持ち帰ることにより「楽しさ」が継続する
- ・イベントに参加することにより家庭内でも自然や科学に関する話題がのぼるようになる

インタビューの対象としたのは、すべて自らが工作したり体験したりする内容を含むイベントであったので、保護者からみても子供たちがコンテンツを十分に楽しんでいたとする意見が多かった。あるイベント主催者の方は、この種のイベントでは成果(工作物)を自宅へ持ち帰ることができることが「楽しさ」を継続できる要因になっている、と語っている

イベントから帰った後に、家庭内でその日のイベントの内容が話題にのぼることが多い、という経験を持つ保護者も多い。中には、イベントへの参加とその後の会話を通じて保護者も子供も知らず知らずのうちに知識が増えていると実感している人もいる。

#### イベント案内等の広報

- ・イベント情報の提供は学校を通じて実施されるのがよい
- ・加えて、より多様なメディアでの情報提供の要望が強い

前述のとおり、イベントの情報は学校からの配布物によって知ったとするケースが多い。学校から提供される情報にはよく目を通している人が多く、また、その内容について安心感があるという意見も聞かれた。ただし、近隣の施設で実施されるイベントであっても、学区が異なると情報が伝達されないという不満の声も聞かれた。

参加者側の希望としては、学校を通じてのお知らせがよいという意見が多数であるが、同時により多様なメディアへの露出を考えて欲しいという希望も強かった。一方で、主催者側は予算的な制約、実施場所の制約などがあるため定員を設けざるを得ない。その結果として、情報提供の範囲についても限定的にならざるを得ないという事情がある。

#### 今後の意向

- ・ほとんどの人は継続的な参加意向を持つ
- ・このため、イベントやイベント施設の量的拡大が望まれている
- ・拡大が期待される体験型・参加型のイベント

程度の差はあるにしても、ほぼすべての人が今後も科学的なイベントに参加したいと考えている。このため、イベントの量的拡大を望む声が多く聞かれる。特に地方では科学的なイベントを実施する機関・施設が限られているためか、イベントの量的拡大と共に機関・施設の拡大も望まれている。

イベントのタイプとしては、実験、工作、観察などの体験型・参加型のものが望まれている。子供の興味を引きつけやすいこと、それにもかかわらず家庭では容易にできないこと、子供だけでなく保護者にとっても興味をかき立てられること、などの理由で体験型・参加型のイベントが支持されている。